

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100449		
法人名	社会福祉法人 敬仁会		
事業所名	グループホーム東出雲(2ユニット)		
所在地	松江市東出雲町意宇南2-5-5		
自己評価作成日	令和7年1月20日	評価結果市町村受理日	令和7年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和7年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしさ、思いを尊重し、共に支え合おう」という事業所理念職員全員で作り出し、その理念に向かって日々入居者様と関わりが持てるように取り組んでいます。

開所当初と比較し、入居者様の重度化が進んできていますが、その方その方に合わせた生活を通しての自立支援を目指しています。また、職員の自己満足とまらない様に考えながら支援しています。感染症が蔓延ししばらく外出や面会等強く制限をかけて支援してきましたが、現在徐々に制限を緩和しており、外出や居室での面会も時間に制限を設けていますが、知り合いや家族様とゆっくりした時間を過ごしていただけるようになりました。今後も感染症が流行する前に行っていた行事が再開でき、季節感や楽しみを感じながら過ごしていただけるよう支援していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人内の3つのグループホームの1つとして12年前にスタートしている。法人全体で職員確保が難しく数年前から外国人スタッフ4名を雇用している。言葉の面から意思の疎通の難しさを感じつつも、職員全員で協力して取り組んでいる。1Fの認知症デイは現在休止状態。2Fに2つのユニットが横並びにある為、中央のスタッフルームから全体を見渡すことができ、特に夜間など限られた職員での対応が可能になっている。その他にも業務改善をしながら、外国人スタッフを加えた職員のケアの充実のために勉強会や研修を続けている。コロナは5類になったものの、外出等の動きは限られており、精神面の刺激になるよう施設内での手作業を増やしたり、体を動かすよう取り組まれている。施設周辺は会社や工場で民家はなく、地域との交流が難しいようだが、段々と関わることで増やせるよう検討していきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしさ、思いを尊重し、ともに支え合おう」の事業所独自の理念をもとに、入居者様の思いを大切にしながら生活していただいています	ベトナムからの技能実習生を4名雇用しており、その際法人で理念についての研修を受けている。できるだけわかりやすく翻訳して伝えるようにしたり、掲示し目に付くようにしている。介護に関することは直接指導の中でゆっくり伝えるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和6年より近隣の保育所との交流行事を再開する事となり、準備を行っていましたが、保育所での感染症の流行が重なり直接交流はできませんでしたが、先生を通して園児さんとのプレゼント交換を行いました。	近くの公民館での花火大会など地域行事は中止の状況が続いており、グループホームでも祭りをし地域からの参加もあったが中止している。交流は持てなかったが敬老の日に保育園からのメッセージが届き喜ばれた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症蔓延後地域との交流は少なくなりましたが、運営推進会議に民生委員さんが参加していただけないか包括支援センターの職員さんに声掛けしていただいています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族様や包括支援センターの職員様に参加していただき活動の報告や話し合いの機会をもっています。	3, 4名の家族の方や包括からの参加で定期に開催している。2か月の間の行事や研修、事故報告等を行い、意見交換に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市内の各居宅ケアマネージャーからの問い合わせや、包括支援センターとの関わり、入居申し込み等随時必要な情報のやり取りを行っています	包括からは毎回運営推進会議に参加があり、専門的立場から意見を得ている。生活保護担当課からは年に1回面談があり情報共有している。直接関わる場面は多くは無いが申請書を出しに出向いたり、認定調査でも関りがあり、いい関係が築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を行い身体拘束についての理解を深め、身体拘束廃止に向けた取り組みを継続して行っています	外の空気を吸いに出る方があり、職員が付き添っている。身体拘束の委員会ではセンサーマットの使い方や必要性を含めて、個別に検討するようにしている。不適切な声掛けなど目に付きにくい場面もあるので、法人の勉強会にもできるだけ参加するようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催し、理解を深めています。職員個々が日々の業務の中で虐待を行う事が無いよう義務付けとしての取り組みを行っています			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で研修を行い理解を深めています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書や、契約書を使用して説明しています。また内容改定時には家族様に文書にて報告を行い、理解・納得していただいています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を設置し、意見や要望等直接話しにくいことも受け付けています。家族様からの意見などがあった場合は都度現場で話し合いを行い、希望に添えるよう対応している	法人からの便りが3か月に1回、利用者1人1人の便りは2か月に1回、写真入りを作成して送っている。担当が日頃の様子を書くようにしている。面会時や電話等でも様子を伝えるようにしており、その都度意見要望を聞くように心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の中で都度意見や提案、相談等を聴く機会(申し送り)持ち、業務改善や日々変化する入居者様の対応について話し合いを行っています。	管理者は他の職員から聞いたり、様子を見て必要と判断した場合は個別に話をするようにしているが、夜勤の際や日頃の業務に入ることが多く話す機会は多い。朝夕のミーティングや連絡ノートでも意見を聞き業務改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員に居室担当、行事担当、委員会等それぞれに受け持ちを持つことで、責任感の向上・知識の向上を図っています。また職員ここが家庭との両立できるよう月ごとに勤務の希望を取っています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、事業所内で定期的に研修を実施し、法人の理念「みんなの笑顔と元気のために」を指針として、その実現に向けて取り組みを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内に事業所がいくつかあり、委員会や研修会等へ参加す際に他の事業所との交流を行う機会があり、サービス向上に向けての話し合いを行っています		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際、本人様の思いに寄り添い、困っている事や要望・不安ごとなどを傾聴し、その内容を職員間で共有し、安心した生活が提供できるよう取り組んでいます		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に本人様にどのように生活を送っていただきたいか希望をうかがい、プランにも反映してサービスを提供しています。また2ヵ月に1回写真と共に近況を家族様に報告しています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接等で本人様が今までされてきたこと、施設に入居後も続けて行えるかの見極めを行い、入居後もスムーズに生活を継続出来るように努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の出来ることの見極めを行い、家事(洗濯物、調理、掃除)等の活動に参加していただき、本人様の生きがい、やりがいとなる様な支援に努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2か月に一回近況報告を行い本人様の様子を伝えさせていただいており、日々困りごとがある際は、家族様と電話で直接お話していただくなど、感染症の蔓延を注意しつつ家族様にも支援に関わっていただいています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、家族様以外の親戚や知人の連絡を頂く事があり、ハガキを定期的にいただいたり、電話をする等、本人様とのなじみの関係を大切にしたい支援に取り組んでいます	昨年末より居室での面会が可能になり、家族と外出して家に帰ったり、美容院に行く方もある。DVDで懐かしいテレビ番組を見たり、演歌を聞くなど、昔を思い出す場面を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール内での席の位置等、日々の変化や関係性を考慮しつつ柔軟な対応を心掛けています。また、洗濯物をたたんでいただく等の作業時は職員が間に入りお手伝いの声掛けを行い協力してざ行出来るよう取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後であっても、相談等あれば対応させていただく旨を説明させていただいています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアを実践していくために、普段の会話等から思いや要望を把握するよう努めています。また意思の疎通が困難な方に対しては、家族様頓話し合い相談を行い本人本位の支援となるよう取り組んでいます	入所時にできるだけ本人、家族にこれまでの生活状況を聞くようにしており、入所してからの気づきも含め職員間で共有するようにしている。表情がよかったことなど、効果を感じることを計画に繋げるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本的な情報については、初期面接や契約時の家族様との面談時に把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化について記録を時系列で詳しく記載するよう努めており、本人様の変化や新しく知りえた情報などについて、ユニットごとの連絡ノート当を用いて職員間で共有出来る様にしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様の要望、意見については来所時に確認することでプランへの反映を実施しています。ユニットの職員でもカンファレンスを実施し、本人様の状況に即したプランになるように努めています。状態の変化がある際は都度変更しながら支援しています	モニタリングを3か月に1回まとめている。コロナで本人、家族を交えての担当者会議はできていないが、面会時や電話で要望を聞くようにして、計画作成に繋げている。	本人や家族等できるだけ多くの参加者で担当者会議を行うことで、信頼関係を築き、より良い計画作成に繋げていただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にプラン内容を記載しており、プランに即したケアが行えるよう努めています。連携した内容を記載するようにしてモニタリング時も活用できるようにしていますが記録内容についてはまだ不十分な部分があります		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々のニーズに合わせたサービス提供が出来るよう心掛けています。職員間での話し合い等を日々の業務で行いながらニーズの実現に向けて取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	屋外を散歩する際、自然や季節を感じながら楽しく散歩していただいています。近隣の保育所との交流を再開し、園児さんとの交流が出来るよう計画しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、家族様が希望されるかかりつけ医を選択していただき、往診、受診対応をしています。変化があった際は家族様と相談を行い、必要な医療が受けられるよう支援しています	家族対応で今までの主治医を継続することでも、往診可能な施設の協力医に変更することもできるようになっている。精神科の受診には職員が付き添い日頃の様子を伝えることで、適切な指示が得られるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に体調の変化や気づきがあった際は訪問看護の看護師に相談し、適切な支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった場合は、看護・介護サマリー等を作成し、医療機関との連携を図っています入院中も定期的に医療機関、家族様と連携し、継続した支援が出来るよう対応しています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けての取り組みについて、入居時に説明・同意をもらうようにしています。また実際に対応が必要になった場合も再度説明、同意をいただいております。医療機関との連携が滞りなく行えるよう連絡調整を行っています	主治医の指示を得ながら、訪問看護も利用して以前から看取りに対応しており今後も続ける意向。介護度3以上になれば特老の申し込みについて話しており、変わる方もあるが、ここでの看取りを希望する家族も多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に法人内の研修を行い、知識としての情報が得られるように対応しています。緊急時のマニュアルも緊急時使用できるようにしています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施しており、避難方法について定期的に確認出来ている。また、水害についても勉強会を行い、有事の際の対応方法について定期的に学びを得ている。地域との協力体制については現状困難な状況である	近くに川があり水害の危険性があるが、建物が2階の為その場に待機となっている。街中の為その他の自然災害には合いにくく、主に火災中心の訓練を昼間、夜間想定で行っている。隣にリース会社があり大雪の時に重機で雪かきの協力があつた。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内研修にて不適切ケアについての研修を定期的に行っており、お互いに注意し合える環境づくりや、定期的な意識づけを行っています	その場に適してないと感じる声掛けがあり、注意するようにしている。場所によって方言に違いがあり理解しにくいこともあるが、法人内で接遇、身体拘束等の研修を受けながら、適した言葉がけに繰り返し取り組むこととしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の状況に合わせ、入浴時間の変更や食事時間等の対応をしているが、重度化により場面によっては職員都合になっている部分もあります。その中でも個々の選択を大切にするように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の都合に合わせてサービスの提供時間を柔軟に変更しながら支援するよう取り組んでいますが、現状難しい部分もあります。可能な限り希望に沿った支援となるよう職員間で話し合いを行いながら取り組んでいます		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケアの声掛け、を行っています。自主性を大切にしていますが、髭剃り等本人様で難しい所は介助にて身だしなみを整えています。おしゃれについては家族様の希望も合わせて髪染め(ハッピー号)もしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化に伴い実施できる方は減少しましたが、本人様の能力を活かして下膳等のお手伝いをしていただいています。自主的に皿洗いをされる姿も見られています	調理担当職員を雇用しており、職員も加わり3食作っている。メインの献立は決まっているが副菜は各ユニットで考えられている。ミキサー、きざみ、お結び等に対応し、食事介助もある。調理に関わる方は少なくなったが、調理の音や臭いを大切に考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通しての摂取量が把握できるよう記録に残しています。食事量の管理が必要で摂取量が少ない時は補助食品も活用し栄養管理を行っています。水分管理については現在おられないが、確認票を作成しており対応可能です		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け等の支援を行っています。地域の歯科医とも連携を図っており、家族様と相談しつつ必要に応じて往診してもらい、義歯の調整等行っていただいています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレでの排泄が続けられるよう支援しており、オムツ対応の方については尿量や排泄のタイミングを把握し、声掛けやパット交換等の選定をしています	重度の方が増え常時オムツの方は定期交換で対応。夜間はオムツでも昼間は紙パンツにパットでできるだけトイレ介助するようにしている。男性で座って排尿することが難しい方、自立の方など個々に合わせた対応で不快に感じないようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事において、野菜を多めに提供したり、ヨーグルト等を利用して便秘予防も行っています。チェック表をもとに排便状況を把握し下剤等を活用しながら支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に2回/週。可能であれば3回/週の入浴ができるよう予定を組んで実施しています。入浴時間について、声掛け時に拒否が見られる際は時間を変えてお誘いするなど、個々に合わせて入浴支援をしています	広い浴室の中央に浴槽がある。またいで中に入れる方、足が上がりにくい場合はスライドボードを利用したり、入れない方にはシャワー浴で対応し、週2～3回へ入れるように声掛けしている。重度の方が多く男性職員の介助で安心される方がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居までの生活習慣・睡眠ペースに合わせて、寝具の選択(畳対応等)や入眠時間等柔軟に対応しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに薬情報をファイルしており、いつでも確認できる対応をしています。症状の変化等が見られた際は受診を行い、薬の変更や追加処方等の対応をしてもらっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様のできること、したい事の把握に努め、役割として行えること(洗濯物たたみ、新聞たたみ等)を声掛け等で行っており、本人様の自主性を大切にしながら支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の希望や行事計画(桜の花見、鯉のぼり見学等)に沿って外出の支援を行っています。また日々の支援の中で、散歩や外気浴に出掛けたりされたり、天候などを考慮しつつご本人様の希望に沿って支援しています。	施設の敷地が広く天候のいい時期には周辺を散歩したり近くのお寺まで出かけている。外出行事は計画的に数人づつ分けて、花見やドライブなどを楽しんでいる。お正月には庭の松やナンテンで生け花を作ったり、季節感が味わえるようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は事業所で行っていますが、本人様が希望される場合は、家族様に相談のもとご本人様に財布を持っていたいた事も以前にありました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個別的に家族様希望により本人様の携帯電話を使用して定期的に連絡をしてもらいたい、との希望に対応しています。また手紙も届く事もあり、本人様にお渡ししていますが現在返信希望の方はいらっしゃいませんが対応は可能です		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感をとり入れる採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気清浄機やエアコンを使用しながら共用空間の管理を行っています。昼間は日の光が入るように配慮したり、折り紙やカレンダーを作成し、季節感を感じていただけるような飾りつけも行っています。	中央にスタッフルームがあり壁を隔てて左右対称に2つのユニットがある。2Fなので外の景色がよく見え明るい。施設周辺は一般企業の会社や工場があるし高速道路も近いが比較的静か。手作業の作品が季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファ、パーテーション、テレビ等を設置し、本人様が過ごしたい所でくつろげるよう声掛け等の支援を行っています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身が使用されていた馴染みの家具など、持ち込みが可能な事を契約時に説明しており、実際に使用されている方もいらっしゃいます。また、基本はベットを準備していますが、希望の方にはたたみでの対応も可能です	大きな収納があり3段に区切られ物も入れやすくなっており、部屋にはあまり多くの物が置かれていない。3段ボックス、テレビを置き写真を飾っている方が多いが、物を置けない方もあり、1人1人に合わせた部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り自立した生活が送っていただけるよう、福祉用具等も活用しながら支援しています。転倒リスクが高くなっている方についてはセンサーマットや鈴を使用して、早期に発見・対応出来るよう対応しています。		